

外壁塗装作業に使用されている主な化学物質

チェック欄	成分名(別名)	CAS RN	有機則の適用	特化則の適用	リスクアセスメント対象物質	発がん性(30年保存)	皮膚等障害化学物質	GHS標章
	イソブチルアルコール (イソブタノール) (2-メチル-1-プロパノール)	78-83-1	第2種		○	○	○	△ ! H226
	イソブロピルアルコール (イソブロパノール) (2-ブロパノール)	67-63-0	第2種		○			△ ! H226
	エタノール (エチルアルコール) (エタン-1-オール)	64-17-5			○	区分1A		△ ! H226
	エチルベンゼン (エチルベンゾール)	100-41-4	(特別有機)	特別有機	○	区分2 (○)	○	△ ! H226
	エチレンジコール (1,2-エタジオール) (1,2-ジヒドロキシエタン)	107-21-1			○	○	○	△ H314
	イソブリューコールモノ-ノルマル-ブチルエーテル (ブチルセロソルブ) (イソブリューコールモフ チルエーテル)	111-76-2	第2種		○	○	○	△ ! H226
	キシレン (ジメチルベンゼン)	1330-20-7	第2種		○	○	○	△ ! H226
	クメン (イソブロピルベンゼン) (1-メチルエチルベンゼン) (2-フェニルプロパン)	98-82-8			○	区分1B		△ ! H226
	シクロヘキサン (ケトシクロヘキサン) (オクソシクロヘキサン) (ビメリンケトン)	108-94-1	第2種		○	○	○	△ ! H226
	ステレン (フェニルエチレン) (エテニルベンゼン) (ビニルベンゼン)	100-42-5	(特別有機)	特別有機	○	区分1B (○)		△ ! H226
	トリメチルベンゼン(メチルキシレン) 1,2,3トリメチルベンゼン(ヘミメチルヘミトリル) 1,2,4トリメチルベンゼン(フゾイドクメン) 1,3,5トリメチルベンゼン(メシチレン)	25551-13-7 526-73-8 95-63-6 108-67-8			○			△ ! H226
	トルエン (メチルベンゼン) (トルオール) (1-メチルベンゼン)	108-88-3	第2種		○	○	○	△ ! H226
	1-ブタノール (n-ブタノール)	71-36-3	第2種		○	○	○	△ ! H226
	2-ブタノール (sec-ブチルアルコール) (2-ブチルアルコール)	78-92-2	第2種		○			△ ! H226
	アビレグリュコルモノメチルエーテル (1-メキシ-2-ブチナール) (1-メキシ-2-ヒドキシブチナノン)	107-98-2			○			△ ! H226
	メタノール (メチルアルコール)	67-56-1	第2種		○	○	○	△ ! H226
	メチルイソブチルケトン (MIBK) (4-メチル-2-ペントノン)	108-10-1	(特別有機)	特別有機	○	区分1B (○)	○	△ ! H226
	ミネラルスピリット	64742-47-8	第3種		○			△ ! H226
	石油ナフサ	64742-95-6	第3種		○			△ ! H226
	灯油 (ケロシン)	8008-20-6			○	区分2	○	△ ! H226
	ヘキサメチレン=ジイソシアネート (1,6-ヘキサメチレンジイソシアネート) (1,6-ジイソシアネートヘキサン)	822-06-0			○	○	○	△ ! H226

固体(粉じんが塗料溶液に混ざっている状態はミスト以外に吸入による危険性はない。)

酸化鉄※ (酸化第二鉄)(赤色酸化鉄) (三酸化二鉄(III))	1309-37-1			○				△
フタロシアニンダリーン※ (ビグメントグリーン-7) (アザフタロシアニナト銅(II))	1328-53-6			○				
カーボンブラック※ (アセチレンブラック)(チャンネルブラック) (アーネスブラック)	1333-86-4			○	区分2			△ ! H226
酸化チタン※ (二酸化チタン) (C.I.ビグメントホワイト)	13463-67-7			○	区分2			△ ! H226
フタロシアニンブルー※ (ビグメントブルー-15) (フタロシアニナト銅(II))	147-14-8			○				
シリカ※ (二酸化ケイ素) (クオーツ)(クリストバル石)	7631-86-9			○	区分1A (○)			△ ! H226

皮膚等障害化学物質：皮膚等障害化学物質(労働安全衛生規則第594条の2(令和6年4月1日施行))及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質リスト記載物質

※：固体
ミストが発生する場合、必要に応じて防じんのための保護マスクや呼吸用保護具を着用する
手に接触する恐れがある場合、保護手袋を着用する
眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグル形を着用する
眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグル形を着用する

外壁塗装作業

リスク管理マニュアル (2026年2月版)



建災防では、厚生労働省の「化学物質による健康障害防止のための濃度の基準の適用等に関する技術上の指針」に基づき、標記作業に係る化学物質のばく露測定を行い、有効な保護具の使用等について定めたマニュアルを作成しました。

このマニュアルを使用することで、次のことができるようになります。

- 労働者がばく露される物質の濃度を測定することなく、その作業におけるリスクアセスメントを実施することができます
- マニュアルに定められた措置を適切に実施することで、その作業においてリスク低減措置を実施することができます
- 作業の記録保存としても利用できます

なお、建災防ホームページ内に各種情報を掲載しております。

ダウンロードもできますので、ぜひご活用ください。

【各種マニュアル】

【化学防護手袋適合表】

【マニュアルに関するQ&A】



作業	スプレー、刷毛又はローラーによる外壁塗装作業			取扱い会社名			元請会社名		
製品名			メーカー	作業内容	作業期間				
作業所名									
化学物質管理者			選任日	保護具着用管理責任者	選任日				
化学物質名	裏表紙のチェック欄にチェックする。								
発がん物質（特別管理物質又はがん原性物質）の有無、名称	有・無	有の場合 化学物質名		【防毒マスクの吸收缶】 【防護手袋】	・吸収缶は、開封後数日使用する場合も最大で5日間までである。 (メタノールを含む製品を使用した場合は、再利用してはならない。) ・使用後は取扱説明書に従い、密閉容器に入れ、冷暗所で保管する。 ・使用する手袋は、化学防護手袋とする。選定した化学防護手袋の耐透過性クラスを確認する。				
危険性	 ○燃えやすい液体。蒸気が滞留すると爆発のおそれがある。 ○塗料かす、清掃等に使用したウエスなどは、空気中で酸化し、発熱、蓄熱すると自然発火するおそれがある。								
有害性	  ○アレルギー性皮膚反応を起こすおそれがある。   ○蒸気を吸入すると、アレルギー喘息または呼吸器困難を起こすおそれがある。 ○吸い込むことにより、発がんのおそれがある。   ○長期にわたる吸入や皮膚からのはく露により、①呼吸器、臓器、中枢神経系への障害、②生殖能力や胎児への悪影響のおそれがある。	【リスク低減対策】	(1)換気  	(2)マスク 	(3)防護手袋を使用しての作業 				
緊急時の対応	○吸入によりめまいや頭痛等の異常がある場合、速やかに現場から運び出し、医師の診断を受ける。 ○皮膚に付着した場合はすぐに拭き取り、石鹼水及び水で洗い流し、炎症等が出た場合、速やかに医師の診断を受ける。 ○眼に入った場合は直ちに清浄な流水で数分間洗眼した後、医師の処置を受ける。					その他注意事項 <ul style="list-style-type: none"> 酸素欠乏危険場所（密閉空間、地下室等）での作業においては、自給式呼吸器を使用すること。 ウレタン・エポキシ樹脂を含む製品には、皮膚感作性、呼吸器感作性があるイソシアネート類が含まれている場合もあるので、保護具の着用に留意する。 ④が含まれる場合は、必ず防毒マスク（有機ガス用）を使用する。 			
作業内容	作業内容・製品に応じた呼吸用保護具		作業内容	防護手袋	保護めがね	保護衣	保護靴	記録欄	
Ⓐ	塗料の混合 主剤、硬化剤、塗料用シンナーの混合	防毒マスク（有機ガス用）を使用する。（臭いがしたら、安全な場所（換気の良い場所）へ行き、吸収缶を即交換する。メタノールを含む製品を使用した場合は、吸収缶を再利用してはならない。）	Ⓐ	ニトリルゴム製等の手袋を使用する。（溶剤が付着した場合は、すぐに取り替える。）ただし、洗浄液の中に手を入れる場合は、多層フィルムを下にニトリルゴム製を上に重ねて使用する。	ゴグル形又は側板（サイドシールド）付き保護めがねを使用する。（ただし、全面形面体防じん機能付防毒マスク使用時を除く。）	皮膚が露出しない服を使用する。（夏季においては、熱中症対策が必要）	安全靴を使用する。	異常の記録 (保護具忘れ、こぼした、眼に入ったなど) 応急処置の記録等	
Ⓑ-1	スプレー塗装 (溶剤系塗料)	防じん機能付防毒マスクを使用する。（全面形面体を推奨。臭いがしたら、安全な場所（換気の良い場所）へ行き、吸収缶を即交換する。フィルターと吸収缶は毎日交換しなくてはならない。）	Ⓑ-1						
Ⓑ-2	スプレー塗装 (水性塗料)	防じんマスクを使用する。（防じん機能付防毒マスクを推奨。防毒マスクを使用しても臭いがしたら、安全な場所（換気の良い場所）へ行き、吸収缶を即交換する。防じん機能付防毒マスクを使用する場合、フィルターと吸収缶は毎日交換しなくてはならない。）	Ⓑ-2	ニトリルゴム製等の手袋を使用する。（溶剤が付着した場合は、すぐに取り替える。）	上向き作業の場合は側板（サイドシールド）付き保護めがねを使用する。				
Ⓒ	刷毛、ローラーでの塗装 (溶剤系塗料)	通風が不十分な場所で作業する場合には、防毒マスク（有機ガス用）を使用する。（臭いがしたら、安全な場所（換気の良い場所）へ行き、吸収缶を即交換する。メタノールを含む製品を使用した場合は、吸収缶を翌日以降再利用してはならない。）	Ⓒ						
Ⓓ	刷毛、ローラーでの塗装 (水性塗料)	呼吸用保護具の着用を推奨する。	Ⓓ						
保護具着用管理責任者 (前日までに記入)	従事する作業内容	選択したマスクを記載		選択した手袋を記載	選択したもの記入			各作業員全員確認サイン	
保護具着用管理責任者又は職長 (当日記入)	従事する作業内容	実際に使用したもの記載		実際に使用したもの記載	実際に使用したもの記載			元請確認	

マニュアルの記入要領について(外壁塗装)

● 化学物質管理者が記載（前日までに）

- 1 マニュアルに貴社名、元請名、作業所名、作業内容、作業期間を記載してください。

使用する製品の SDS を確認します。製品のラベルと SDS の項目番号 1 に記載されている製品名が一致していることを確認します。
マニュアルの製品名とメーカーの欄を記入します。

- 2 SDS の項目番号 2 の危険有害性の要約 GHS 分類、健康に対する有害性をチェックします。ラベル要素の絵表示のシンボルを確認します。

(腐食性  、 どくろ  、 感嘆符  、 健康有害性 )

- 3 SDS の項目番号 3 の組成、成分情報を確認します。含まれている成分が、マニュアルの裏表紙に記載されている場合は、チェック欄にチェックを入れてください。
チェックを入れた物質について、Ⓐ、Ⓑ、Ⓒの対象となっているか確認してください。

発がん物質の有無を確認し、発がん物質の欄の有無のいずれかに○を付け、有の場合には、化学物質名を記載します。裏表紙の化学物質一覧表の発がん性の欄に「(○)」の付いた物質は、作業記録（作業マニュアル）、健康診断の保存期間が 30 年となります。

● 保護具着用管理責任者が記載（化学物質管理者が記載内容を確認後、作業前までに）

- 4 作業当日の予定作業を従事する作業内容欄にⒶⒷ-1Ⓑ-2ⒸⒹで記入してください。

- 5 作業内容・換気状態に応じた呼吸用保護具等（以下「保護具等」という。）を選択し、作業当日に着用する保護具等を確認し、保護具等の欄に選択した保護具名を記載してください。作業内容・換気状態に応じた保護具等が合致しているか確認してください。

● 保護具着用管理責任者または、職長が記載（作業当日）

- 6 従事する作業内容（ⒶⒷ-1Ⓑ-2ⒸⒹ）、実際に使用する保護具等を記載してください。保護具着用管理責任者または、職長は、上段の欄に記載されているものと合致しているか確認してください。

● 各作業員がサイン（作業開始前）

- 7 作業内容、保護具等の確認後、各作業員が全員サインをしてください。

● 職長が記載（作業終了時）

- 8 作業終了時に、異常の記録欄に異常があった場合はその内容を、ない場合には、無と記載してください。

● 元請が記載（作業終了後）

- 9 元請は、異常の記録欄が記載されていることを確認し、元請の確認欄にサインしてください。

*Ⓐ：有機溶剤中毒予防規則適用物質、Ⓑ：特定化学物質障害予防規則適用物質、Ⓒ：皮膚等障害化学物質（労働安全衛生規則第 594 条の 2（令和 6 年 4 月 1 日施行）及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質リストに記載されている物質

GHS による絵表示

危険有害性絵表示	シンボル	危険・有害性の例
	爆弾の爆発	不安定爆発物 火災又は飛散危険性 熱すると爆発のおそれ
	炎	引火性液体；可燃性液体 熱すると火災のおそれ 自然発火；自己発熱・発火のおそれ 水に触れると可燃性ガスを発生
	円上の炎	火炎助長 酸化性物質 強酸化性物質
	ガスボンベ	可燃性の高いガス；爆発的に反応するおそれ 高圧ガス 凍傷又は傷害のおそれ
	腐食性	金属腐食のおそれ 皮膚の薬傷および眼の損傷
	どくろ	飲み込むと生命に危険 飲み込むと有毒 皮膚に接触すると生命に危険 皮膚に接触すると有害 吸入すると生命に危険 吸入すると有毒
	感嘆符	飲み込むと有毒；皮膚に接触すると有害 吸入すると有害のおそれ 皮膚刺激；眼刺激 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ オゾン層の破壊により健康および環境に有害
	健康有害性	吸入するとアレルギー・喘息・呼吸困難を起こすおそれ 遺伝性疾患のおそれ 生殖能または胎児への悪影響のおそれ 反復曝露による臓器の傷害
	環境	長期継続的影響により水生生物に毒性